

令和3年度島根県少年スポーツ指導者セミナー

日時 令和3年6月19日(土) 15:00~18:00

会場 出雲市民会館

参加者 46名

概要

講義

今回の指導者セミナーについては初めての海外講師であり、リモート出演となった。

通信状況等事前チェックを行ったこと等もあり、特にトラブルもなく無事終了した。

内容については、ドイツのスポーツ人口についてやスポーツを行う環境から指導方法についてお話いただいた。

ドイツでは夏休み中クラブの練習はOFFとなる。(6週間くらい)家族と過ごすことを優先している。スポーツ漬けにならないようリフレッシュの時間を大切にしている。

ドイツのクラブ運営については、地域の方や引退したメンバーがサポートしながら運営を行っている。またレストランが併設されているところが多く、世代間交流が日常的に行われる環境である。

指導については、大人になった時に、選手としても、一人の人間としても、自分の頭で考えて、自分の足で歩いて、自分の手で道を切り開けるようになることが目的としている。

スポーツにおいて勝ち負けではなくどんな経験を積むのかが大切であり、自分で問題点を認知し、判断し、自分自身で決断することが大切である。監督が言ったプレーをそのまま実行すると監督の言葉なしに自分自身で判断できなくなるため、監督の言った言葉を変換あるいは分解し自分の中で答えを見出していくことが成長へとつながる。

日本とドイツとの指導者の価値観や指導視点が違うと感じられた指導者も多かったと思う。

【質問】

○勝敗の拘らないと言っても、負け続けるとモチベーションが下がる。このような場合はどのようにしているのか。

⇒5点差がつくと、勝者・敗者ともにモチベーションが下がる。勝ち負けいずれも経験できるようにリーグを作成する。

○日本ではゴールキーパーをやりたがらない。

⇒日本ではゴールキーパーがかっこいいと思える指導者の言葉やメディアの捉え方をしていない。

ゴールキーパーがチームにとってどれだけ大切で、どれだけ重要な存在なのか伝える必要がある。

○クラブ運営の高齢者スタッフは、どのような方々なのか。

⇒クラブOBや立候補制で選挙によって決定している。

○理不尽な指導という言葉があるが、ドイツにもあるのか。

⇒ドイツにも理不尽なことを言う指導者はいる。クラブの将来的なビジョンにそぐわなければ、必然的にいなくなる。たとえボランティアであっても、ちゃんと向き合っていける人をクラブは選んでいる。子どもの成長に繋がることを何よりも重視している。

○ドイツにおけるトレーナー育成の現状はどうか。

⇒育成そのものは日本と変わらない。トレーナーが活躍できる環境作りができていないのでは。また、傷害を捉える意識としては、大事な試合だと言って休ませないということはない。子どもの頃、痛いのを無理させてケガをする事例は日本には多い。ドイツでは、選手の健康と人権を守ることが大切。

